

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人高知大学  
相良祐輔

## 高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。  
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	36人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

## 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	168人	141人	294.8人	看護業務補助	37人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	8人	13.1人	理学療法士	9人	臨床検査技師	37人
薬剤師	17人	9人	26.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	1人	検査その他	0人
助産師	9人	3人	12.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	405人	58人	454.6人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	6人	6.0人	栄養士	0人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	2人	事務職員	61人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	27人	その他の職員	40人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

## 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	472.5人	9.7人	482.2人
1日当たり平均外来患者数	908.6人	57.5人	966.1人
1日当たり平均調剤数		695.6 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	(有)・無	0人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象探得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	(有)・無	1人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31鱗一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理 有・無	取扱い患者数 人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宫体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	2人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ペーチェット病	30 人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	10 人
・多発性硬化症	16 人	・ウェグナー肉芽腫症	2 人
・重症筋無力症	25 人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	15 人
・全身性エリテマトーデス	113 人	・多系統萎縮症	11 人
・スモン	人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	人
・再生不良性貧血	11 人	・膿疱性乾癬	5 人
・サルコイドーシス	43 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・筋萎縮性側索硬化症	11 人	・原発性胆汁性肝硬変	23 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	99 人	・重症急性胰炎	8 人
・特発性血小板減少性紫斑病	47 人	・特発性大腿骨頭壊死症	29 人
・結節性動脈周囲炎	12 人	・混合性結合組織病	15 人
・潰瘍性大腸炎	66 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・大動脈炎症候群	8 人	・特発性間質性肺炎	16 人
・ビュルガー病	6 人	・網膜色素変性症	8 人
・天疱瘡	12 人	・ブリオン病	人
・脊髄小脳変性症	26 人	・原発性肺高血圧症	4 人
・クローン病	30 人	・神経纖維腫症	8 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	人	・亜急性硬化性全脳炎	3 人
・悪性関節リウマチ	9 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・パーキンソン病	49 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧症)	4 人
・アミロイドーシス	5 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4 人
・後縦靭帯骨化症	39 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・ハンチントン舞蹈病	人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月 6回 程度		
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 27 例	剖検率 15.9 %	

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
脂肪酸β酸化能を規定する遺伝子多型の特定とその結晶蛋白構造解析	西原 利治	消化器内科学	2,990	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
Vanishing bile ductモデルマウスの開発	大西 三朗	消化器内科学	2,860	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
炭酸脱水酵素関連蛋白が癌細胞の進展を増強する分子メカニズムの解明	西森 功	第一内科	2,990	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
難知性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大西 三朗	消化器内科学	33,000	(補委) 厚生労働省科学研究費
難治性膀胱疾患に関する調査研究	西森 功	第一内科	1,500	(補委) 産業医科大学(厚生労働省科学研究費)
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	橋本 浩三	内分泌代謝・腎臓内科学	1,000	(補委) 神戸大学(厚生労働省科学研究費)
新しいCRF family peptidesとストレス応答機構の機能的解析	岩崎 泰正	第二内科	200	(補委) 弘前大学(独立行政法人日本学術振興会)
ウイルス関連造血器腫瘍におけるメチル化遺伝子の解析および新規治療法に関する研究	大畑 雅典	第三内科	1,690	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
セレクチンリガンドを有するKL-6/MUC1分子の臨床病理学的意義	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	1,820	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
肺癌における癌抑制遺伝子の新規候補とその機能解析	小松 直樹	第三内科	1,700	(補委) 文部科学省研究振興局
造血器悪性腫瘍に対するテーラーメード医療確立のための基礎研究	西岡 千恵	血液・呼吸器内科学	900	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
高齢者包括的・全人的医療に関する標準的医療システムの開発に関する研究 分担研究課題名: 地域におけるCGAの普及の取り組み	西永 正典	老年病・循環器・神経内科学	1,500	(補委) 国立長寿医療センター
地域在住高齢者の抑うつ頻度とその危険因子—総合的機能評価による総合的検討—	西永 正典	老年病・循環器・神経内科学	1,430	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
効果的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する総合的研究	西永 正典	老年病・循環器・神経内科学	1,500	(補委) 杏林大学(厚生労働省科学研究費)
地方都市における輪番体制の意義と夜間救急診療の実態解明に関する研究	脇口 宏	小児科	1,620	(補委) 高知市休日夜間急患センター 平日夜間小児急患センター
慢性活動性EBウイルス感染症に対する包括的新規治療戦略に関する研究	脇口 宏	小児思春期医学	1,820	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
CRFによる中枢性交感神経一副腎髓質系賦活における誘導型NOSの役割	臼井 大介	小児科	1,400	(補委) 文部科学省研究振興局
MCIを対象としたアルツハイマー型痴呆の早期診断に関する研究 (J-COSMIC)	上村 直人 福本 光孝	神経科精神科 放射線部	126	(補委) 長寿科学振興財団
こころの健康づくりアンケート調査	加藤 邦夫	神経精神科学	450	(補委) 高知県
精神科在院患者の地域移行、定着、再入院防止のための技術開発と普及に関する研究	井上 新平	神経精神科学	800	(補委) 国立精神・神経センター
統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究	下寺 信次	神経精神科学	430	(補委) 国立精神・神経センター
認知症と骨粗鬆症のための臨床データベース構築の応用と治療法の標準化に関する研究 分担研究課題名: アルツハイマー病の臨床データベース構築と治療法の標準化	上村 直人	神経科精神科	1,000	(補委) 国立長寿医療センター
統合失調症の認知機能障害とコンプレキシンの変化—末梢血での検討	加藤 邦夫	神経精神科学	2,340	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
認知症高齢者の自動車運転に対する社会支援のあり方に関する検討	上村 直人	神経科精神科	700	(補委) 国立長寿医療センター(厚生労働省科学研究費)
乾癬発症に必要な表皮Stat3活性化の機序および表皮免疫細胞間クロストークの解析	佐野 栄紀	皮膚科学	9,750	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
ヒト末梢血リンパ球の放射線誘発アポトーシスにおける新しい経路の証明	小川 恭弘	放射線医学	1,690	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
放射線抵抗癌に対する過酸化水素による放射線増感作用の検討	都築 和宏	放射線科	700	(補委) 文部科学省研究振興局
消化器外科周術期における人工脾臓を用いた新しい血糖管理法の確立	花崎 和弘	外科学(外科1)	1,820	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
呼吸器外科領域悪性腫瘍患者における核酸代謝関連酵素の発現に関する検討	穴山 貴嗣	外科学(外科2)	100	(補委) 大鵬薬品工業株式会社 徳島研究センター テーラーメード医療研究所
特異的24G7抗体イムノクロマトグラフィーによる急性拒絶反応の新しい診断法の確立	笹栗 志朗	外科学(外科2)	3,200	(補委) 独立行政法人日本学術振興会
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療の適正出力に関して	笹栗 志朗	外科学(外科2)	3,570	(補委) 厚生労働省科学研究費
光トポグラフィーを用いた子宮内膜症性疼痛の脳内認知	深谷 孝夫	産科婦人科学	2,210	(補委) 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
子宮頸癌放射線治療中における血管新生因子動態の解析	小栗 啓義	産科婦人科学	1,430	○補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮内膜症腹腔内マクロファージの免疫シナプス形成からみた抗原提示能の評価	山本 寄人	産科婦人科	1,800	○補委 文部科学省研究振興局
虚弱高齢者のための児童・生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	谷 俊一	整形外科学	400	○補委 黒潮町
慢性痛覚過敏モデルを用いたLoxoprofenの鎮痛効果の評価とそのメカニズムを検討する	谷 俊一	整形外科学	3,120	○補委 第一三共株式会社 葛西研究開発センター
神経移行に伴う脳・脊髄機能再構築と伝達の機能再生に関する研究	山中 紀夫	整形外科学	650	○補委 独立行政法人日本学術振興会
Functional MRIによる脊髄機能診断法の開発	谷 俊一	整形外科学	2,860	○補委 独立行政法人日本学術振興会
脊柱韌帯骨化症に関する調査研究	谷 俊一	整形外科学	1,000	○補委 東京大学(厚生労働省科学研究費)
高齢者の腰痛症に係るより効果的かつ効率的な診断、治療、介護及びリハビリテーション等の確立に関する研究	武政 龍一	整形外科	2,000	○補委 慶應義塾大学(厚生労働省科学研究費)
転写因子O1ig2下流因子の同定とその遺伝子導入に基づく神経膠芽腫治療法の開発	清水 恵司	脳神経外科学	2,000	○補委 独立行政法人日本学術振興会
シグナル伝達分子阻害薬によるアレルギー性結膜疾患の重症化抑制	福島 敦樹	眼科学	2,000	○補委 独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションサテライト高知
アレルギー性結膜疾患発症における結膜抗原提示細胞の解析	福島 敦樹	眼科学	1,560	○補委 独立行政法人日本学術振興会
メニエール病における発作発生と治療効果発現の機序に関する研究	柿木 章伸	耳鼻咽喉科	4,290	○補委 独立行政法人日本学術振興会
前庭機能異常にに関する調査研究	竹田 泰三	耳鼻咽喉科学	14,000	○補委 厚生労働省科学研究費
虚血性脳卒中患者における血管イベントの発症率に関する前向き観察研究(Effective Vascular Event REduction after Stroke, EVEREST)	清水 恵司 朴 啓彰	脳神経外科学	1,000	○補委 サノフィ・アベンティス株式会社
空間的かつ時間的制御を可能とする悪性グリオーマに対する幹細胞療法の基礎的研究	中林 博道	脳神経外科	3,640	○補委 独立行政法人日本学術振興会
がん幹細胞の生み出す多様性の原因解析と免疫療法への応用	八幡 俊男	脳神経外科学	2,860	○補委 独立行政法人日本学術振興会
メチル化DNAマーカーと血清腫瘍マーカー併用によるヒト腎癌の早期診断法の開発	執印 太郎	泌尿器科学	10,140	○補委 独立行政法人日本学術振興会
フォンヒッペルリンドウ遺伝子が関与する腎細胞癌骨転移特異的遺伝子発現の解析	辛島 尚	泌尿器科学	1,900	○補委 文部科学省研究振興局
悪性度を反映する前立腺癌新規腫瘍マーカーの機能解析および臨床応用	蘆田 真吾	泌尿器科	1,700	○補委 文部科学省研究振興局
超早期がんの低侵襲で効果的、正確で安全な診断・治療用微細内視鏡機器装置及びその医療技術の開発に関する研究に係る調査研究	執印 太郎	泌尿器科学	1,500	○補委 国立がんセンター(厚生労働省科学研究費)
難治がんの総合的な対策に関する研究	執印 太郎	泌尿器科学	5,000	○補委 国立がんセンター(厚生労働省科学研究費)
扁平上皮癌におけるレドックスシステムによるHIF-1αの発現制御機構の解析	山本 哲也	歯科口腔外科学	9,620	○補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌のDNA損傷応答システムの解析に基づく新規治療法の開発	尾崎 登喜雄	歯科口腔外科学	1,950	○補委 独立行政法人日本学術振興会
緑茶と唾液腺機能—緑茶と唾液分泌量および唾液中抗菌蛋白質に関する基礎的研究	鎌谷 宇明	歯科口腔外科学	1,300	○補委 文部科学省研究振興局
口腔扁平苔癬発症におけるTLRシグナルの関わりと癌化に関わる遺伝子発現	立石 善久	歯科口腔外科学	2,000	○補委 文部科学省研究振興局
扁平上皮癌のEph-Ephrinシグナルを介する浸潤・転移機構の解析	笛部 衣里	歯科口腔外科学	2,200	○補委 文部科学省研究振興局
小児急性リンパ性白血病における遺伝子解析および新規癌抑制遺伝子の同定	武内 世生	総合診療部	1,690	○補委 独立行政法人日本学術振興会
クラビット錠・細粒特定使用成績調査「第8回抗菌剤感受性年次別推移の検討」	杉浦 哲朗 上岡 樹生	病態情報診断学教室	650	○補委 第一三共株式会社
海洋深層水の胃内寄生性病原細菌(ヘリコバクター・ピロリ)に対する抗生素活性の機序解明	竹内 啓晃	検査部	700	○補委 独立行政法人科学技術振興機構 JSTサテライト高知
新規蛍光標識糖鎖の開発(実用性評価部分)	竹内 啓晃	検査部	410	○補委 増田化学工業株式会社
難治性起立性低血圧の治療のための非侵襲的人工動脈圧反射装置の開発	山崎 文靖	検査部	4,680	○補委 独立行政法人日本学術振興会
ニスタリカ(中米諸国)におけるヘリコバクター・ピロリ感染と消化管疾患の病態解析	CON CHIN, S. A.	病態情報診断学	1,200	○補委 独立行政法人日本学術振興会
成人T細胞白血病ウイルスにおける新たな病原性発現制御機構の検討	今村 潤	輸血部	500	○補委 独立行政法人日本学術振興会
脈波伝播時間を用いた非侵襲連続心拍出量の測定	山下 幸一 横山 武志 笛栗 志朗	救急部 麻酔科学 外科学(外科2)	520	○補委 日本光電工業株式会社
悪性胸膜中皮腫に対するMCI-186を用いた新たな分子標的の治療法の開発	割石 精一郎	集中治療部	1,820	○補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
全方向移動が可能な歩行訓練機の介護予防事業への展開に関する研究	石田 健司	リハビリテーション部	2,000	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションサテライト高知
高齢者における廃用症候群（生活不活発病）の実態調査と生活機能向上のための運動療法の開発	石田 健司	リハビリテーション部	600	徳島大学（厚生労働省科学研究費）
ペルオキシダーゼ標的・増感放射線療法 KORTUCの開発とその適応疾患の拡大	小川 恭弘	放射線医学	2,000	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションサテライト高知
癌リンパ節転移のCTおよびMRI診断用の新しい造影剤の開発	濱田 典彦	放射線部	600	独立行政法人科学技術振興機構 JSTサテライト高知
慢性難治性疼痛患者の脳局所血流とブドウ糖代謝に関するポジトロン核種による解析	福本 光孝	放射線部	1,040	独立行政法人日本学術振興会
ピワ種子由来エキスを応用した外用・美容健康剤の開発	西岡 豊	薬剤部	5,313	株式会社テクノネットワーク四国
碁石茶の機能性評価と生産技術の検討	西岡 豊	薬剤部	1,750	大豊町

小計 7

合計 74

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatology 45 : 1375-1381	Angiotensin II type 1 receptor blocker inhibits fibrosis in rat nonalcoholic steatohepatitis.	Hirose A	内科 (一)
J Med Chem 50 : 381-388	Carbonic anhydrase inhibitors. DNA cloning, characterization, and inhibition studies of the human secretory isoform VI, a new target for sulfonamide and sulfamate inhibitors.	Nishimori I	内科 (一)
J Am Soc Nephrol 19: 298-309, 2008	Aldosterone stimulates NF- $\kappa$ B activity and transcription of ICAM-1 via serum and glucocorticoid-inducible protein kinase (SGK)1 in rat mesangial cells	Terada Y	内科 (二)
Diabetes Care 30: e48, 2007	Pioglitazone rapidly increases serum adiponectin levels in men with normal glucose	Ikeda Y	内科 (二)
Mol Immunol 45: 463-469, 2008	Edaravone inhibits collagen-induced arthritis possibly through suppression of nuclear factor- $\kappa$ B	Arii K	内科 (二)
Am J Physiol Endocrinol Metab 292: E1899-1905, 2007	Activation of AMP-activated protein kinase stimulates proopiomelanocortin gene transcription in AtT20 corticotroph cells	Iwasaki Y	内科 (二)
Cardiomyopathy Update, 54-58, 2007	Hypertrophic cardiomyopathy with midventricular obstruction.	Doi Y	内科 (老年)
Cardiomyopathy Update, 59-69, 2007	Apical hypertrophic cardiomyopathy.	Doi Y	内科 (老年)
Cardiomyopathy Update, 70-78, 2007	Dilated phase of hypertrophic cardiomyopathy.	Doi Y	内科 (老年)
目でみる循環器シリーズ 15. 心筋症, 45-153, 007	肥大型心筋症：治療の目標／薬物療法	山崎直仁	内科 (老年)
肥大型心筋症ハンドブック, 192-198, 2007	7章. 予後・自然歴 1. 予後と死因	人見信彦	内科 (老年)
肥大型心筋症ハンドブック, 199-206, 2007	7章. 予後・自然歴 2. 予後予測因子	大川真理	内科 (老年)
肥大型心筋症ハンドブック, 207-214, 2007	7章. 予後・自然歴 3. 自然歴	久保 亨	内科 (老年)
今日の診断基準, 155-156, 2007	拡張型心筋症	久保 亨	内科 (老年)
今日の診断基準, 157-158, 2007	肥大型心筋症	大川真理	内科 (老年)
J Am Coll Cardiol, 49: 2419-2426, 2007	Prevalence, clinical significance, and genetic basis of hypertrophic cardiomyopathy with restrictive phenotype.	Kubo T	内科 (老年)
日老医誌, 44: 302-304, 2007	老年症候群：わずかな視・聴覚機能低下が生活機能やQOL低下に与える影響	西永正典	内科 (老年)
日本医事新報, 4327: 53-61, 2007	臨床医学の展望：老年医学。	土居義典	内科 (老年)
老年医学, 45: 1149-1153, 2007	地域連携のための共通言語：高齢者総合機能評価	西永正典	内科 (老年)
Medical Technology, 35: 1260-1265, 2007	心筋症の診断：3. 遺伝子検査	久保 亨	内科 (老年)
Pediatric Nephrology 22:192-201	Effect of selenium-deficient diet on tubular epithelium in normal rats.	Fujieda M	小児科
医学と薬学, 58(2), 363-369	EBウイルス抗体検出EIAキットEB VCA-IgM, EB VCA-IgG, EB EA-IgG, EBNA-IgG(II)EIA「生研」の精度について	脇口 宏	小児科
日本小児腎不全学会雑誌, 27, 178-181	EBV未感染レシピエントにおけるEBV負荷量、抗体価およびkiller T細胞の推移	藤枝幹也	小児科
日本医師会雑誌, 136特別号(2), S76-77	貧血[小児]。腎・泌尿器疾患診療マニュアル-小児から成人まで	石原正行	小児科
Eur J Pediatr, 167, 183-188	Myocardial scintigraphy after pacemaker implantation for congenital complete atrioventricular block.	Takasugi H	小児科
医学と薬学, 58: 363-369	EBウイルス抗体検出EIAキットEB VCA-IgM, EB IgG, EB IgG, EBNA-IgG(II) EIA「生研」の精度について	脇口 宏	小児科
日本小児皮膚科学会雑誌, 26(2), 127-132	EBウイルス感染症のオーバービュー	脇口 宏	小児科
小児内科, 39(11), 1996-2002	症例に学ぶ—診断に苦慮する長引く発熱疾患 EBウイルス感染症	前田明彦	小児科
香川小児科医会会誌 28: 48-54	学校検尿とそのフォローについて—長所と限界および代表的疾患の治療—	藤枝幹也	小児科
小児科診療, 70(増), 508-510	[症候から見た小児の診断学] 骨盤部・鼠径部の症候 蛋白尿	石原正行	小児科
日本医師会雑誌, 136 (特別2), 64-65	[腎・泌尿器疾患診療マニュアル 小児から成人まで] 主要症候・検査から診断へのアプローチ 身体徵候・検査から腎・尿路系疾患を見付け出す乏尿、尿閉(小児)	石原正行	小児科
日本医師会雑誌, 136 (特別2), 76-77	[腎・泌尿器疾患診療マニュアル 小児から成人まで] 主要症候・検査から診断へのアプローチ 身体徵候・検査から腎・尿路系疾患を見付け出す貧血(小児)	石原正行	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Nephrol 67 : 44-48	Renal complications in two patients with dentatorubral-pallidoluysian atrophy.	Morita T	小児科
日本小児科学会誌, 111(9), 1172-1176	Haemophilus influenzae type bによる化膿性心外膜炎の2例	高杉尚志	小児科
メディチーナ 精神科	認知症の介護と社会支援 認知症と自動車運転免許 認知症患者の自動車運転の実績と医師の役割	上村直人 上村直人	神経科精神科 神経科精神科
Journal of Dermatology 34: 757-760, 2007	IgG/IgA pemphigus with dyskeratotic acantholysis and intraepidermal neutrophilic	Kimiko Nakajima	皮膚科
臨床皮膚科 61: 914-916, 皮膚科の臨床50: 230-231, 2008	Intravascular histiocytosisの1例. 上眼瞼の脂腺癌の1例.	山本真有子 永野弓枝	皮膚科 皮膚科
第21回日本乾癬学会記録集: 104-106, 2007	乾癬と転写因子.	池田光徳	皮膚科
今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 皮膚 科疾患 皮膚凍結療法 (皮膚凍 結手術療法) 868-869, 医学 書院, 東京, 2008	皮膚凍結療法 (皮膚凍結手術療法).	池田光徳	皮膚科
J Dermatol Sci, 50: 1-14, 2008	Impact of Stat3 activation upon skin biology: A dichotomy of its role between homeostasis and diseases	S. Sano	皮膚科
Oncol Rep. 2007 Apr;17(4):915-8	Diagnostic accuracy of mammography, ultrasonography and magnetic resonance imaging in the detection of intraductal spread of breast cancer following neoadjuvant	久保田敬	放射線科
Oncol Rep. 2007 Jun;17(6):1475-80	Sentinel lymph node detection using computed tomography lymphography is accurate after neoadjuvant chemotherapy for breast cancer.	植 博信	放射線科
Auris Nasus Larynx, 2007 Dec;34(4):465-9. Epub 2007 May 3	Effects of olfactory stimulation with isovaleric acid on brain activation in informed and naïve conditions: a functional MRI study.	村田 和子	放射線科
Breast Cancer. 2008 Feb 16. [Epub ahead of print]	Erythema multiforme after radiotherapy with aromatase inhibitor administration in breast-conservation treatment for breast cancer.	中谷 貴美子	放射線科
臨床放射線 (0009-9252) 52巻 12号 Page1685-	食道癌の放射線治療計画におけるPET/CTの有用性 (原著論文・抄録あり)	西岡明人	放射線科
日本臨床外科学会雑誌 68:3006-3009, 2007	食道メラノーシスに合併した早期食道癌の1例	駄場中研	外科 (一)
外科 69: 1117-1121, 2007	特集: 外科領域における各種メッシュ (人工繊維布) ・ フィルムの応用 I. 総論 1. 人工繊維布・フィルムの開発と応用	並川努	外科 (一)
日本消化器外科学会雑誌 40:1834-1838, 2007	脾臓原発T細胞悪性リンパ腫の1切除例	駄場中研	外科 (一)
日本小児外科学会誌43: 751-755, 2007	腹腔鏡下に確定診断を行った原発性腹膜炎を併発した特発性ネフローゼ症候群の1例	緒方宏美	外科 (一)
新潟県医師会報 690:1-6, 2007	脾内分泌腫瘍に対する外科治療の現状と問題点	花崎和弘	外科 (一)
latest findings- The 44th annual meeting of the Japanese Society for Artificial Organs Luncheon Seminar. Nikkiso Original Technologies. P1-6, 2007	Current status of ICU-based glycemic control and outlook for the artificial pancreas-glycemic control using the artificial pancreas	Hanazaki K	外科 (一)
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 17(4):296-299, 2007	Modified Funada's Gastropexy Needle for Mesh Fixation in the Subcutaneous Layer Using Thread During Laparoscopic Incisional Hernia Repair	Kobayashi M	外科 (一)
消化器外科 30:1291-1301	中部・下部胆管癌に対する幽門輪温存脾頭十二指腸切除術; シャープック型ハーモニックスカルペルを用いた脾切離法	花崎和弘	外科 (一)
日本臨床外科学会雑誌 68:1821-1825	Stage IV下行結腸癌術後16年で骨盤腔内腹膜外再発を認めた1例	駄場中研	外科 (一)
Hepato-Gastroenterology 54: 116-118	Anti-reflux pouch-esophagostomy after proximal Gastrectomy with jejunal pouch interposition reconstruction	Kobayashi M	外科 (一)
日本内視鏡外科学会雑誌 12: 317-321	胃瘻造設用腹壁固定針を用いた腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア手術	小林道也	外科 (一)
Hepato-Gastroenterol 54:609-612, 2007	Clinicopathological investigation of early gastric carcinoma: is less invasive surgery right for early gastric carcinoma?	Okabayashi T	外科 (一)
Hepato-Gastroenterol 54:1648-1651, 2007	Xanthogranulomatous pancreatic abscess secondary to acute pancreatitis: Two case	Okabayashi T	外科 (一)
日本消化器病学会雑誌104:30-35, 2007	広範囲・散在性に少なくとも28個の胃壁内転移をきたした胃癌の1例	岡本健	外科 (一)
J. Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques 17: 461-466, 2007	Laparoscopic D3 lymph node dissection with preservation of the superior rectal artery for the treatment of proximal sigmoid and descending colon cancer	Kobayashi M	外科 (一)
Gastric Cancer 10:52-57, 2007	Pharmacokinetic study of weekly administration dose of paclitaxel in patients with advanced or recurrent gastric cancer patients in Japan	Kobayashi M	外科 (一)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 61: 385-388	直腸悪性黒色腫に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した1例	北川博之	外科(一)
Langenbeck's Arch Surg. 392:649-652	Duodenum-preserving pancreatic head resection for pancreatic metastasis from renal cell carcinoma: a case report	Maeda H	外科(一)
J Hepato-Biliary-Pancreat Surg. 14:557-563, 2007	Risk factors in pancreatic fistula after pancreatic head resection	Okabayashi T	外科(一)
Surg Today 37: 633-637, 2007	Clinicopathological Analysis of Idiopathic Perforation of the Gallbladder	Namikawa T	外科(一)
Gastric Cancer 10: 256-259, 2007	Recurrence of gastric cancer in the jejunal pouch after completion gastrectomy	Namikawa T	外科(一)
Hepato-Gastroenterol 54:937-940, 2007	Pancreatic metastasis from renal cell carcinoma: Report of three resected cases and review of Japanese	Okamoto K	外科(一)
The Japanese Society of Digestion & Absorption 30:23-26, 2007	消化管機能からみたU領域早期胃癌に対する噴門側胃切除後空腸囊置換再建術の評価	並川努	外科(一)
Surg Tech Int	Anti-reflux pouch-esophagostomy after Gastrectomy	Kobayashi M	医療管理学 外科(一)
Surgical and Radiologic Anatomy, 29:105-113, 2007.	Potential foramen to allow communication between the pleural cavity and retroperitoneal space during laparoscopic surgery: a cadaver study of Bochdalek's triangle.	Michihiro Kawada	外科(二)
Anesth Analg 2008;106:160-3	The Accuracy of a Continuous Blood Glucose Monitor During Surgery	山下幸一	救急部
Fertility and Sterility	Decreased human leukocyte antigen-DR expression in the lipid raft by peritoneal macrophages from women with endometriosis.	Yamamoto Y	産科婦人科
Fertility and Sterility	Human leukocyte antigen-G, a ligand for the natural killer receptor KIR2DL4, is expressed by eutopic endometrium only in the menstrual	Kawashima M	産科婦人科
産婦人科の実際	【内視鏡手術の適応と要約 治療におけるPros and Cons】 多嚢胞性卵巣における腹腔鏡	宇賀神奈月	産科婦人科
日本産科婦人科学会雑誌	産婦人科検査法 穿刺診	深谷孝夫	産科婦人科
産科と婦人科	【中枢内分泌の最新知見とその異常】 メラトニン	林和俊	産科婦人科
日本産科婦人科学会雑誌	OCと緊急避妊 OC使用の新ガイドラインと本邦での現状	深谷孝夫	産科婦人科
産婦人科の実際	【子宮内膜症の特殊病態を病理と臨床から考える】 臨床から 子宮内膜症の発症臓器・組織	山本寄人	産科婦人科
産婦人科治療	【女性の疼痛とその対策】 わが教室における婦人科疾患の疼痛管理	小栗啓義	産科婦人科
医学のあゆみ	【不妊症 臨床と研究の最前線】 子宮内膜症・子宮腺筋症 子宮内膜症の治療ストラテジー	川島将彰	産科婦人科
産婦人科治療	【ホルモン療法 最近の話題】 本邦におけるOCの普及と新ガイドライン	菅麻里	産科婦人科
Annual Review糖尿病・代謝・内分泌	生殖医学 基礎分野での進歩 子宮内膜症と免疫	前田長正	産科婦人科
Muscle & Nerve 35(4): 458-464, 2007	Quantitative sensory testing of cold and vibration perception during experimental compression of median nerve at the wrist.	Hideshi TSUBOYA	整形外科
Journal of Orthopaedic Science 12(3): 207-213, 2007	Anterolisthesis and retrolisthesis of the cervical spine in cervical spondylotic myelopathy in the elderly.	Motohiro Kawasaki	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル 20(5): 570-576, 2007	高齢者の骨粗鬆症性椎体骨折に対するリン酸カルシウムセメントを用いた椎体形成術	武政龍一	整形外科
臨床整形外科 42(6): 511-517, 2007	運動器の痛みと脳の反応	牛田享宏	整形外科
臨床脳波 49(7): 413-419, 2007	仮想(擬似)痛み経験に伴う脳活動部位の検討	池本竜則	整形外科
運動器の痛み診療ハンドブック : 19-29, 2007	運動器の痛み診療の最前線 2. 痛みの新しい診断技術(A. 脊髄における痛み診断の試み B. 痛み関連脳活動の診断(脳機能イメージング法を用いて) C. PET、SPECTを用いた視床血流の評価)	牛田享宏	整形外科
運動器の痛み診療ハンドブック : 299-309, 2007	特殊な疼痛性疾患 6. 転移性骨腫瘍(A. 痛みの特徴 B. 病態 C. 治療 D. 転移性骨腫瘍の緩和治療における今後の役割)	川崎元敬	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル 20(11): 1143-1144, 2007	圧迫性神経障害とrapidly reversible block	谷俊一	整形外科
Monthly Book Orthopaedics 20(13): 31-38, 2007	高齢者の頸椎症・頸髄症の手術的治療(前方固定術)とその成績	谷口慎一郎	整形外科
日本マイクロサーボジャーナル 21(1): 5-11, 2008	大腿骨頭壞死症に対する骨頭回転骨切り併用血管柄付き腸骨移植術	野口政隆	整形外科
Biochem Biophys Res Commun, 353(1): 211-216, 2007	Antibodies to T-cell Ig and mucin domain-containing proteins (Tim)-1 and -3 suppress the induction and progression of murine allergic conjunctivitis.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol, 245(5) : 705-14, 2007	Roles of CD4+CD25+ T cells in the development of experimental murine allergic conjunctivitis.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Int Arch Allergy Immunol, 144(1) : 79-84, 2007	Endogenous IL-10 produced by Ag-irrelevant cells promotes the development of experimental murine allergic conjunctivitis.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Immunol Letters, 110(2) : 133-138, 2007	T-cell Ig and mucin domain-containing protein (Tim)-2 regulates murine allergic conjunctivitis during the effector phase.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Biol Pharm Bull, 30(9) : 1745-1747, 2007	Cryptomeria japonica-induced allergic conjunctivitis in mice.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Immunol Letters, 113(1) : 52-57, 2007	B7-H3 regulates the development of experimental allergic conjunctivitis in mice.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Cornea, 26(9 Suppl 1) : S36-40, 2007	Roles of T-cells in the development of allergic conjunctival diseases.	Fukushima A. (福島敦樹)	眼科
Immunol Letters, 108(1) : 62-67, 2007	Differential contributions of B7-1 and B7-2 to the development of murine experimental allergic conjunctivitis.	Sumi T. (角環)	眼科
Int Arch Allergy Immunol, 143(4) : 276-281, 2007	Thymus-derived CD4+ CD25+ T cells suppress the development of murine allergic conjunctivitis.	Sumi T. (角環)	眼科
Jpn J Ophthalmol, 51(1) : 60-63, 2007	Vogt-Koyanagi-Harada disease with onsets in elderly people aged 68 to 89 years old.	Yamamoto Y. (山本由美子)	眼科
Can J Ophthalmol, 43(1) : 42-47, 2007	Intraocular pressure elevation after intravitreal or posterior sub-Tenon triamcinolone acetonide injection.	Yamamoto Y. (山本由美子)	眼科
MURIS NASUS LARYNX, 2007 Nov 6. [Epub ahead of print]	Protective effects of edaravone against iscemia-induced facial palsy.	Takeda T	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol, 2008 Mar;128(3):233-8.	Presence and regulation of epithelial sodium channels in the marginal cells of stria vascularis.	Kakigi A	耳鼻咽喉科
MURIS NASUS LARYNX, 2008 Mar 6. [Epub ahead of print]	Plasma antidiuretic hormone in cases with the early onset of profound unilateral deafness.	Takeda T	耳鼻咽喉科
Cancer Letters 246:182-189, 2007	Clinico-pathological significance of RCAS1 expression in gliomas: A potential mechanism of tumor immune escape.	Nakabayashi H	脳神経外科
日本泌尿器科学会雑誌 98:808-818, 2007	低侵襲治療におけるマイクロ波凝固療法, ラジオ波焼灼療法,	井上啓史	泌尿器科
CARDIOLOGY	Asymptomatic Pericardial Effusion in Patients with Rheumatoid Arthritis	Sugiura T	検査部
日本ヘリコバクター学会誌 vol. No. 2 50-55 2008	ヘリコバクターピロリ関連ITP発症機序とその関連蛋白	竹内啓晃	検査部
Biosystems	Comparison of codon usage and tRNAs in mitochondrial genomes of Candida species.	Kamatani T	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌	舌背部に発生した骨性分離腫の1例	日比弓紀子	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌	重層扁平上皮を伴いリング状を呈した上顎洞内骨腫の1例	植田栄作	歯科口腔外科
口腔組織培養学会誌	口腔扁平上皮癌細胞におけるEph/Ephrinの発現とその意義	笹部衣里	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌	ビスマスフォスフォネート製剤によると考えられた上顎骨壊死の1例	立石善久	歯科口腔外科

小計 22

合計 117

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 倉本 秋		
管理担当者氏名	総務管理課長 林 勝幸 医療サービス課長 高橋 貞夫 薬剤部長 西岡 豊 放射線部長 小川 恭弘	医療安全管理部長 谷 俊一	

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		医療サービス課(病歴室)及び薬剤部並びに放射線部	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式とし、エックス線写真は一患者一ファイル方式と共にコンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務管理課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学生・研究支援課	
	高度の医療の研修の実績	総務管理課	
	閲覧実績	総務管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課及び薬剤部	
確規保則の第9状況条の2及び第11条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策チーム	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策チーム	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策チーム	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策チーム	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染対策チーム	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器管理室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	ME機器管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 溝口 陸奥夫
閲覧担当者氏名	総務管理課長 林 勝幸
閲覧の求めに応じる場所	医療サービス課 医事相談室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	60.8 %	算 定 期 間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算	A：紹 介 患 者 の 数		8,207人
出	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,436人
根	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		457人
拠	D：初 診 の 患 者 の 数		17,765人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) ( 1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の設置状況	(有) ( 1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
所属職員： 専任（2）名 兼任（10）名	
活動の主な内容（医療安全管理部規則）	
(1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。	
(2) 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。	
(3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。	
(4) 医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。	
(5) 改善策を立案すること。	
(6) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。	
(7) 安全管理に関する教育・研修に関すること。	
(8) 安全管理に関する連絡調整に関すること。	
(9) その他安全管理に関すること。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
指針の主な内容（本院の安全管理のための指針）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から）</li> <li>・医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項</li> <li>・医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>・医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針</li> <li>・医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・患者さんからの相談への対応に関する基本方針</li> <li>・患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
活動の主な内容（リスクマネジメント代表者会議内規）	
(1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項。	
(2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関すること。	
(3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、医療問題調査委員会への報告に関すること。	
(4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関すること。	
(5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関すること。	
(6) 研修会等の企画・立案に関すること。	
(7) 協議事項の結果をリスクマネジメント担当者会議に周知徹底すること。	
(8) その他安全管理に関すること。	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年13回
研修の主な内容：安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について実施 医療事故防止の基本的な考え方、本院の安全管理体制、インシデント報告システム、本学医学部および附属病院における百日咳集団発生事例報告、ある大学附属病院におけるHIV診療、放射線部でのCT・MRIを中心とした事故防止、インフォームド・コンセント等	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
医療機関内における事故報告等の整備	(有)・無
その他改善の方策の主な内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事例の分析を行い、事例に対応する事故防止のための研修会の開催、マニュアルの追加</li> <li>・医療機器の不具合情報を厚生労働省に報告するとともに院内にもリスクマネジメントニュースとして周知</li> <li>・報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。</li> <li>・病棟巡回を行い、その結果を病棟に示し注意・改善を喚起している。</li> </ul>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項</li> <li>院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li> <li>感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>審議事項               <ol style="list-style-type: none"> <li>感染の発生及びその感染経路の調査に関すること</li> <li>感染予防に係る情報の収集に関すること</li> <li>感染予防の実施、監視及び指導に関すること</li> <li>感染症発生時の措置に関すること</li> <li>院内職員の教育及び啓発に関すること</li> <li>消毒剤等の使用に関すること</li> <li>感染症専用処置室の運用に関すること</li> <li>その他感染予防に関すること</li> </ol> </li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>百日咳事例調査報告</li> <li>愛媛大学医学部附属病院におけるHIV治療</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 ( (有)・無 )</li> <li>その他の改善の方策の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>感染情報レポートは、週報(毎週1回)、月報(毎月1回)、年報(毎年1回)作成し、感染症法に基づく病原体(MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌など)、β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型β-ラクタマーゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。</li> <li>MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。</li> <li>これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。</li> <li>診療科、病棟、外来、検査部から専任感染対策マネージャーに報告。</li> <li>専任感染対策マネージャーは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する。</li> <li>感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する。</li> <li>接触者(患者、面会者、医療従事者)を確認し、必要な予防策を講じる。</li> <li>医師、看護師、ICT合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る。</li> <li>隨時専任感染対策マネージャーから感染対策委員会委員長に報告する。</li> <li>各診療科、病棟から所属長に報告する。</li> <li>ICTに報告が必要な病原体として、多剤耐性緑膿菌、パンコマイシン耐性腸球菌、基質拡</li> </ol> </li> </ul>	

散型  $\beta$ -ラクターゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・帯状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。

12. 診療科、病棟、外来、検査部から専任感染対策マネージャーに報告があれば、

- ①専任感染対策マネージャーは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
  - ②感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
  - ③接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
  - ④医師、看護師、ICT 合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
  - ⑤隨時専任感染対策マネージャーから感染対策委員会委員長に報告する
  - ⑥各診療科、病棟から所属長に報告する
- 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> ・無)
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>麻薬・向精神薬の取り扱い</li> <li>処方オーダーの仕方</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li> <li>業務の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>①医薬品の採用・購入に関する事項</li> <li>②医薬品の管理に関する事項</li> <li>③患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項</li> <li>④患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>⑤医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li> <li>その他の改善の方策の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>D I ニュースの発行 (年 3 ~ 4 回発行)</li> <li>医薬品、医療用具等の安全情報の発行 (年 11 ~ 12 回発行)</li> </ul> </li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：</li> </ul> <p>全職員・新人看護師・研修医等に対する、安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器等の、適正な使用方法とインシデント対策等に関する定期研修、及び新しい医療機器の導入時の操作方法等に関する研修を実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の策定 ( (有)・無 )</li> <li>保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>特に安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器を含む、人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプなどの機器類の定期点検、日常点検等を実施し、コンピュータ化されて機器名、型式等が入力されている機器台帳により個々に記録管理し、かつ保守点検計画を策定。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )</li> <li>その他の改善の方策の主な内容：</li> </ul> <p>使用部署に取扱い説明書等を整備。医療機器製造販売業者等から収集した安全情報は、病院の電子掲示板により周知を図るが、緊急を要する場合は、直接関係部署に出向き、説明し情報を伝え対応をとる。また、院内医療機器のインシデントの報告に対し、その安全対策・改善策を周知し実施する。さらに、医療機器の不具合は、病院管理者への報告を通して、医療機器安全性情報報告書を原則として厚労省に提出する。</p>	